

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「登美高生は『強いから優しい』＝「挑戦する強さがあるから、人を包む優しさを持てる」人材を輩出する。
「全人教育(知識・技能だけでなく、人間性を調和的、全面的に発達させる教育)」という理念に基づき、創立 100 周年の歴史の中で、多彩な人材を社会に輩出し続けてきた高校として、「主体的な挑戦心」「自制心と回復力」「思いやりと気配り」を持った生徒を育成する。

そのために

授業・行事・部活動・地域連携等学校におけるあらゆる教育活動を通して

1. 学習と行事・部活動を本気で取り組む 2. 希望する進路を実現する 3. 地域から愛され信頼される 学校を実現する

2 中期的目標

1. 高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現

- (1) 魅力ある教育課程の編成に注力し、同時に WEB サイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。
ア スクールミッション・学校経営計画の実現状況・進行状況を、保護者・地域に、出来る限り早く正確に WEB サイト等を通じ発信する。
(2) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む。
ア 学力生活実態調査、授業アンケートを軸にした PDCA サイクルの徹底による授業改善を進める。
イ 教師力(教科指導力+人間力)を向上させる。ー本校オンライン教育理念「生徒の常に傍にいる」を核に、経営推進費計画である ICT 機器使用を手段として、学校でも家庭でも学習を保障する仕組みを構築する。ー教育センター・他校種との連携、教育産業の活用を図る。
ウ 着想・展開・発表する力を育む取り組みを進める。ーアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。
ー発表の舞台を作る。(読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表、探究授業での発表など)

※学校教育自己診断(保護者)における「登美丘高校に進学させてよかった」の肯定率(R2:92% R3:94% R4:92%)をR7年度には95%以上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒)における「授業はわかりやすい」の肯定率(R2:84% R3:84% R4:82%)を、R7年度には86%以上をめざす。

(3) 進学実績の向上

- ア 「授業・自学自習(≡グループウェアを使用した家庭学習支援の充実)・講習」の一体化と充実を図る。
イ 「自学力」の育成ーもっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
ウ 「国公立志望・看護医療・公務員希望」ー国公立進学希望者の進路を実現させるとともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。
エ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた対応を進める。

※共通テスト受験者数(R2:120名 R3:112名 R4:101名 → R7年度150名)、国公立現役合格者(R2:8名 R3:4名 R4:5名 → R7年度10名)、関関同立・現役合格者(R2:47名 R3:66名 R4:81名 → R7年度90名)をめざす。

2. 「自制心・回復力、主体性・挑戦心、思いやり、気配り」＝左記の非認知能力の醸成を図る。

- (1) 「主体的・挑戦的に行動する心」を育成するとともに、「人を思いやることの大切さ」を実感させる。
ア 非認知能力の向上の仕組みを策定。
イ 生徒会活動の自主運営 ー学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。
ウ 自主性・自立性を育成するキャリア教育の推進を図る。ー魅力的な外部社会人との接点を持ち、自己実現について考える機会を創出する。
エ 国際理解の推進 ーコロナ禍において実現可能な、新しい国際交流の事業に取り組む。
オ 人権尊重教育の取組み ー多様な社会の中で、視野・視座の上がる教育を行い、思いやり・気配り力の醸成を図る。

※学校教育自己診断(生徒)「将来の生き方や進路について考える機会がある」の肯定率(R2:95%、R3:93%、R4:93%)をR7年度までに95%以上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動ホームルーム活動は活発である」の肯定率(R2:91%、R3:86%、R4:84%)をR7年度まで常時90%以上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒)「人権や男女平等について学ぶ機会がある」の肯定率(R2:90%、R3:90%、R4:91%)をR7年度まで常時90%以上をめざす。

(2) 教育相談体制の充実 SCを積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率(R2:88%、R3:84%、R4:85%)をR7年度には90%以上をめざす。

3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携

(1) 機能的な組織運営

- ア 本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど「働き方改革」に取り組む。
イ グループウェア、ICTを生かした機能的な校務運営に務める。
ウ 令和5年の100周年記念事業への取組みを軸に、学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。

※学校教育自己診断(教職員)「学校行事や校務分掌等でPDCAが実施されている」の肯定率(R2:68%、R3:58%、R4:52%)をR7年度に70%以上をめざす。

(2) 地域連携の推進

- ア With コロナの環境下で、「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭」などへの新たな形での積極的な参加体制を構築する。

※学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動など保護者地域の人々に関わる機会がある」肯定率(R2:51%、R2:54%、R3:52%)をR7年度に60%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 高校の魅力づくりと効果的な情報発信・授業の充実と進路の実現	<p>(1) 魅力ある教育課程の編成に注力し、同時にWEBサイト等を利用した学校運営情報の効果的な発信を実現する。</p> <p>(2) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む</p> <p>(3) 進学実績の向上</p>	<p>(1) 夏休み時に発信した教育課程の整理・改善策決定と次年度に向けた改善計画立案する工程の策定、及び動画配信・LIVE配信を基本とする情報発信を行う。</p> <p>(2) ア・進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月授業改善テーマ設定・7月第1回授業アンケート・11月公開研究授業・12月第2回授業アンケート/学校全体の授業力の向上をめざす。学力生活実態調査に基づき、本校生のつまづき科目や単元を学校全体で共有し、話し合いができるような土壌を作る。 イ・推進費で取得したICT機器等を利用し、授業・家庭でICT機器を使った学習を行う。 ウ・発表のある授業・英語プレゼン大会・情報プレゼン発表を充実させ、発表力を養う。</p> <p>(3) ア・「授業・自学自習(≒グループウェアを使用した家庭学習支援)」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・教育産業主催の自宅学習動画の活用。 ウ・「希望別進路指導」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 エ・学習指導要領改訂、高大接続改革に対応した取組みを進める。</p>	<p>(1) 保護者「進学させて良かった」94% [92%]</p> <p>(2) ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」85% [82%] ・授業アンケート質問(知識や技能が身についた)学校平均3.40 [3.38]・生徒自己診断「教え方に工夫」83% [81%] 「発表する機会」89% [87%] ・学力生活実態調査で AS10%以上・CD25%以下 [AS7.3%・CD30.3%] イ・生徒1人1台端末の活用を推進している。75% [72%] ウ・英語、情報プレゼンの取組みの内容を向上させる</p> <p>(3) ア・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」55% [52%] イ学習動画に満足82% [81%] ウ・共通テスト受験者140名以上 [101名] 国公立現役合格者10名以上 [5名] 関関同立現役合格者82名以上 [81名] 産近甲龍現役合格者265名以上 [263名] エ・大教大コンソーシアムに参加</p>	
2. 「自習心・回復力 主体性・挑戦心 思いやり、 気配り」 II 左記の非認知能力の醸成を図る。	<p>(1) 「主体的・挑戦的に行動する力」を育成するとともに、「人を思いやることの」を実感させる</p> <p>(2) 教育相談体制の充実</p>	<p>(1) ア・非認知能力向上の仕組みを策定。 イ・生徒会活動の自主運営に取り組む。 ウ・自主自立育成のキャリア教育を推進する。 エ・国際交流事業の実施。 オ・計画的な人権尊重教育に取り組む。</p> <p>(2) ア・学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SCとの積極的な連携を図る。</p>	<p>(1) ア・高大接続で研修実施 イ・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」87% [84%] ウ・生徒自己診断将来の生き方について考える機会がある 95%以上 [93%] エ・交換留学事業の復活 オ・人権学ぶ機会 92% [91%]</p> <p>(2) ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」87% [85%]</p>	
3 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携	<p>(1) 機能的な組織運営</p> <p>(2) 地域連携の推進</p>	<p>(1) ア・本校の特色や状況を踏まえつつ、長時間勤務の縮減に向けた取り組みをはじめ、教職員一人ひとりの意識改革を推進するなど「働き方改革」に取り組むグループウェアを導入、学年団と分掌等の連携強化を図り、業務の効率化に取り組む。 イ・グループウェア、ICTを生かした機能的な校務運営に務める。 ウ・PTA、同窓会との連携を強め、創立100周年(R5年)に向けた準備を進める。</p> <p>(2) ア・コロナ禍でできる、新たな地域活動への積極的参加「早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し」、地域の活性化に貢献する。</p>	<p>(1) ア・教職員自己診断「情報交換」72% [70%] 「PDCA」60% [52%] イ・会議でのICT/ペーパーレスの実現 ウ・100周年記念事業の成功</p> <p>(2) ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々と関わる機会がある」55% [52%]</p>	